

第1回 伊勢市地域福祉計画推進委員会 概要結果（要旨）

開催日時 令和2年8月26日（水）午前10時00分～11時40分

開催場所 伊勢市役所本館3階 委員会室

出席委員 鶴沼憲晴委員、小林初美委員、下 郁雄委員、柴原淳子委員、前島賢委員、立松浩明委員、秋山則子委員、大松真由美委員、野間通代委員、加藤好美栄委員、泰道詞子委員、前村裕司委員、嶋垣智之委員、植村法文委員、藤本宏委員、鳥堂昌洋委員

欠席委員 森田秀次委員

事務局 伊勢市役所：健康福祉部大井戸次長、健康福祉部岩佐参事、福祉総務課大桑課長、高齢者支援課小林課長、障がい福祉課濱口課長、保育課堀川課長、市民交流課木村課長、介護保険課浦井課長、生活支援課山崎課長、健康課浦田課長、福祉総務課辻村主幹、福祉総務課小川係長、地域福祉係谷本
伊勢市社会福祉協議会：川合課長、小山係長、奥野係長、竹澤係長

傍聴者 2名

1. 委嘱状交付

市長より各委員に委嘱状及び辞令を交付

2. 市長あいさつ

大変お忙しい中、伊勢市地域福祉計画推進委員会の開催にご出席いただき御礼申し上げます。また、日頃はそれぞれの立場において、地域福祉にご尽力いただいておりますこと、最近では新型コロナウイルス感染症対策にご協力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策に関しては、国の交付金を活用しながら、感染拡大の防止、経済対策を行っているところではありますが、市民の経済環境にも影響がでてきています。納税猶予、生活福祉資金、児童虐待、DVの相談などが、例年より増加しており、市民の福祉に対するニーズが多様化、重層化していることが顕著に現れております。この状況につきましては、今後も注視していく必要があると認識しており、委員のみなさまが、福祉の現場で察知されたことを共有して、できるだけ早く手立てをとっていただければと考えております。

福祉現場の人手不足の課題についても、支え手、担い手をどのように育成していくのか、庁内で議論をスタートしたところであり、20年後を見据えた有機的な地域福祉の仕組みを作っていかなければならないと感じております。

地域福祉をとりまく環境は、重要な局面にきております。顔の見える関係、ネットワークを大事にしながら地域福祉の充実のため、みなさまとともに歩んでいければと思っておりますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

3. 委員長、副委員長の選出

委員から事務局の提案を求められたため、鶴沼委員長、小林副委員長を提案し、了承される。

4. 令和元年度の振り返り及び令和2年度の方針について

「地域福祉(活動)計画 重点事項 進捗管理シート」に沿って伊勢市及び伊勢市社会福祉協議会が説明

【各委員主な質問・意見】

○委員

障がい者サポーター制度のキッズサポーター養成では、発達障がいも対象としているのか。

○事務局

発達障がいも対象としているが、啓発の方法については、学校、先生とも相談しながら事業を進めている。

○委員

施設入所時の身元保証、入院時等の生活支援など、日々の活動で困る場面が多く、権利擁護体制の充実に関連して身元保証問題について研究していただくとのことであるが、社協で安価な制度を確立していただけるとありがたい。

○委員

障がいの分野においても、身元保証、緊急時の生活支援の問題がある。信頼できる制度ができれば、地域での生活が充実していくと思うので、ぜひ社協に担っていただきたい。

○事務局

昨年度、社協で職員向けに身元保証の研修を実施し、現在、懸案事項について検証を行っているところ。ご意見を参考に進めていきたい。

○委員

保育士不足が大きな問題と感じている。

○事務局

今年度、保育士確保事業として、養成校向けだけでなく、中学生、高校生を対象とした保育士の仕事を知ってもらうような取り組みなどを進めており、公立私立問わず協力して、担い手確保に努めている。

○委員

障がい分野の虐待対応として、相談を受けたときのフローチャートがあるとありがたい。また、その中で基幹型相談センターの役割を教えてください。地域包括支援センターと基幹型相談支援センターでは重なる部分もあり、協働して動いていければ思う。

○事務局

障がい者の虐待については、基幹型相談センター、地域相談支援センター、市の3層体制で対応しており、全国的なフローチャートに基づき連携している。虐待の通報などがあった場合、それまでに基幹型相談支援センター、地域相談支援センターで関わっていることもあるので、情報提供してもらったり連携しながら、その後の支援に繋げている。

基幹型相談支援センターと、地域包括支援センターとの重なる部分については、国が社会福祉法の改正を行い、重層的支援体制整備事業を進めており、市としても障がい、高齢、子どもなどの分野に

かかわらず相談を受けるような体制を作っていこうと検討中である。

○委員

伊勢市では中学3年で子どもの権利条約について学習し、子ども自らが虐待について学ぶ機会があり、実際、自分から警察や児童養護施設に相談した事例があると聞いている。子どもだけでなく、障がい者、女性など虐待される側に、権利について学ぶ機会を提供することが大事だと思う。

○事務局

参考にさせていただきます。

○委員

個別避難計画の進捗、今後の進め方について教えていただきたい。

○事務局

「防災ささえあい名簿」が作成し、避難支援等関係者に提供したところである、今後は、個別避難計画の作成について、ご本人、ご家族への周知を図り、進めていきたい

○委員

民生委員の日々の活動は、地域の人々から相談を受け、支援につなげていくことが大部分です。地域共生社会の実現に向けて、断らない相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を重要視していただきたい。

5. その他

次回会議では、令和2年度の実績見込みについての報告を行いたい。時期は、令和3年2月～3月の予定。